

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年5月号)

2021/04/28

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは4月30日(水) 9:00現在
※休日の実績は前営業日

		4月27日現在 (矢印は3月末比)	5月の予想
USD	ドル・円 (円)	↘ 108.70	⇒ 106.50 ~ 110.50
	上下材料あるが明確な方向感を出すには乏しく当面もみ合い		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↗ 1.209	⇒ 1.17 ~ 1.23
	ユーロ・円 (円)	↗ 131.46	⇒ 127.00 ~ 133.00
コロナ感染の収束やワクチン接種の進展など好感で底堅く推移			
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↗ 1.391	↘ 1.32 ~ 1.42
	ポンド・円 (円)	↘ 151.25	↘ 145.00 ~ 153.00
ワクチン接種率の伸び鈍化、スコットランド議会選挙警戒			
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↗ 84.45	⇒ 82.00 ~ 85.50
	NZドル・円 (円)	↗ 78.36	⇒ 76.00 ~ 79.50
リスク選考継続で底堅いが、政策スタンス変化なしでもみ合い			
株式 相場	日経平均 (円)	↘ 28,992	⇒ 28,500 ~ 30,500
	決算が良好なら上昇も、ワクチン普及遅れは重石		
	NYダウ (ドル)	↗ 33,985	⇒ 32,500 ~ 35,000
	財政やワクチン期待は継続も、左派的政策懸念から上値重い		
長期 金利	日本 (%)	↘ 0.085	⇒ 0.04 ~ 0.16
	0.1%近辺でレンジ形成、米金利なりの動きとなりやすい		
	米国 (%)	↘ 1.622	⇒ 1.45 ~ 1.75
	テーパリングや財政議論に注目も共に進展せず方向感出づらい		

◆ 今月の注目ポイント

更なる米経済対策の議論の行方に注目

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気 動向	◎	【景気動向見極め】各国でワクチン接種が進む中、経済の段階的な正常化が実体経済へと波及しているかを見極める月となろう。一方で一部の国をでは変異種の流行等から感染が再拡大している。日本では緊急事態宣言が発令され、ワクチン接種にも遅れが見られる。感染拡大が日本株の出遅れや円安につながる可能性に注意。
金融 政策	○	【テーパリングに向けて見極め】今月は日米欧の中銀とも政策決定会合はない。経済の正常化が進む中で各種指標を見極めつつ、6月会合にも米欧ではテーパリングに向けた地ならしが行われるとみられる。
政治	◎	【米国の経済対策議論】バイデン大統領は長期経済対策として3月発表の2.25兆ドルの「米国雇用計画」に次ぐ、1~2兆ドルの「米国家族計画」を4/28に公表予定。同時に超富裕層へのキャピタルゲイン税の増税案等も発表されると見られ、その後議会での本格的な協議が行われる。元々増税は公約に掲げられておりサプライズではないものの、就任後のハネムーン期間も終了することから、左派的な政策のマイナスの側面に対するマーケットの反応には注意。

◆ 新興国通貨見通し

人民元・円	⇒ 16.4 ~ 17.0	レアル・円	⇒ 18.5 ~ 20.5
バーツ・円	↘ 3.35 ~ 3.55	メキシコペソ・円	↗ 5.20 ~ 5.75
ルピア・円	↘ 0.72 ~ 0.77	ループル・円	↘ 1.35 ~ 1.50
ルピー・円	↗ 1.41 ~ 1.50		

◆ 今月の重要日程

3日(月) 米	4月ISM製造業	18日(火) 日	21/1Q GDP1次速報
6日(木) 英	BOE金融政策委員会	19日(水) 米	FOMC議事録(4/27、28)
7日(金) 米	4月雇用統計	20日(木) 日	4月貿易統計
12日(水) 米	4月CPI	21日(金) 日	4月CPI
14日(金) 米	4月小売売上高	21日(金) 欧	5月PMI
17日(月) 中	4月生産・小売・投資	25日(火) 米	5月消費者信頼感指数

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

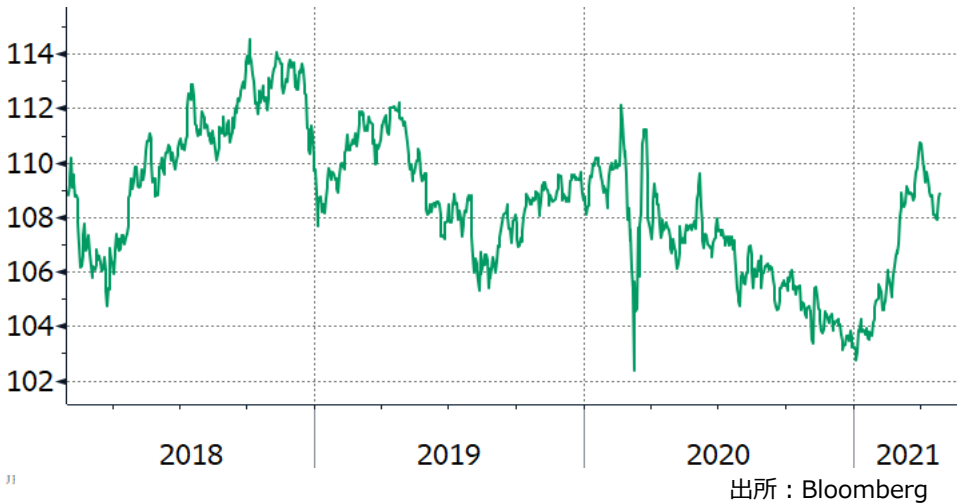


りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年5月号)

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円

⇒ ドル円は横ばい

106.50 – 110.50円

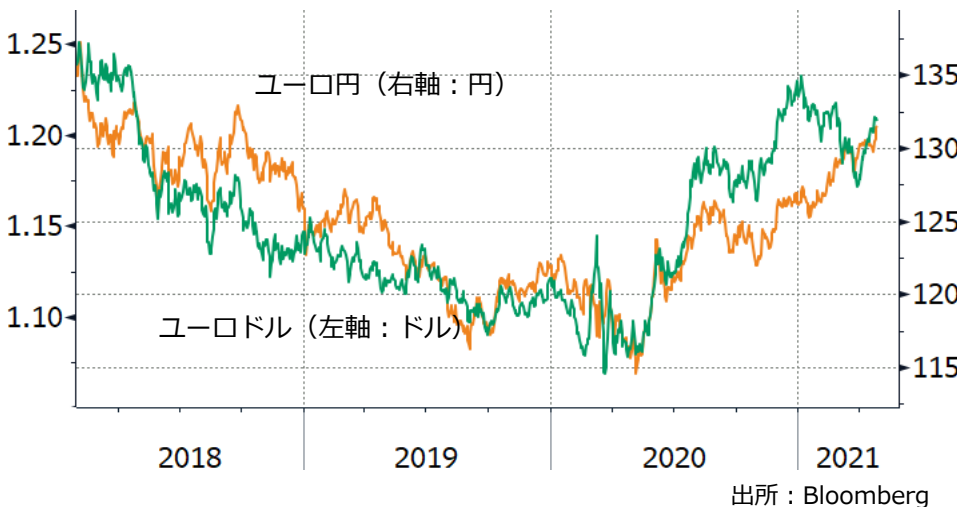
ドル円は上下材料あるが明確な方向感を出すには乏しく当面もみ合い

足元では、ユーロ圏経済の見直しやドル買戻しの一服からユーロ高ドル安の流れが続き、連れてドル円もややレンジを切り下げた。米金利上昇に一服感がでていることや、3月のドル円上昇局面で進んだ円売りポジション拡大の流れが止まったこともドル円の上値を重くさせた。

先行きを考えると108円前後の動きが続きやすいと想定している。欧州のワクチン接種進展やコロナ感染者数の落ち着き等による経済回復期待で引き続きユーロが選好されやすく、ドル安地合いのなかではドル円に下落圧力がかかりやすい。一方で、日本はワクチン接種が他先進国から大きく遅れており、足元では再度緊急事態宣言が発出された。経済回復の遅れが意識されることは日本株の出遅れと円売りにつながる。

ドル円は上下の材料が混在しているが、明確な方向感を出す材料には乏しいとみられる。当面はレンジ相場が続いたのち、米国の金融引き締め動きが進捗するとともに上昇に向かうと想定している。

ユ ー ロ



ユーロドル

⇒ ユーロドルは横ばい

1.17 – 1.23ドル

ユーロ円

⇒ ユーロ円は横ばい

127.00 – 133.00円

ユーロドルは横ばい、ユーロ円は横ばいを予想

4月のユーロは、ドルに対して上昇、円に対して横ばいとなった。ドル安主導で対ドルでは上昇も、その他主要通貨に対してはまちまち。4月に開催されたECBでは、政策方針に変更なく、サプライズなしの会合となりユーロへの影響は軽微であった。

5月のユーロは対ドル、対円ともに横ばい圏と予想する。ドル安の一服からユーロドルは横ばい水準となる。4月に引き続き、足元の欧州各国のコロナ感染状況はロックダウンの実施により抑制されつつあり、ワクチンの普及も徐々に拡大していることを考えると、経済の再開への期待は高まるであろう。また、ドイツ憲法裁判所が欧州復興基金について反対派の差し止め請求を棄却したことで、復興基金の障害の一つが取り除かれユーロへの安心感が強まり、ユーロは底堅く推移するとみる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

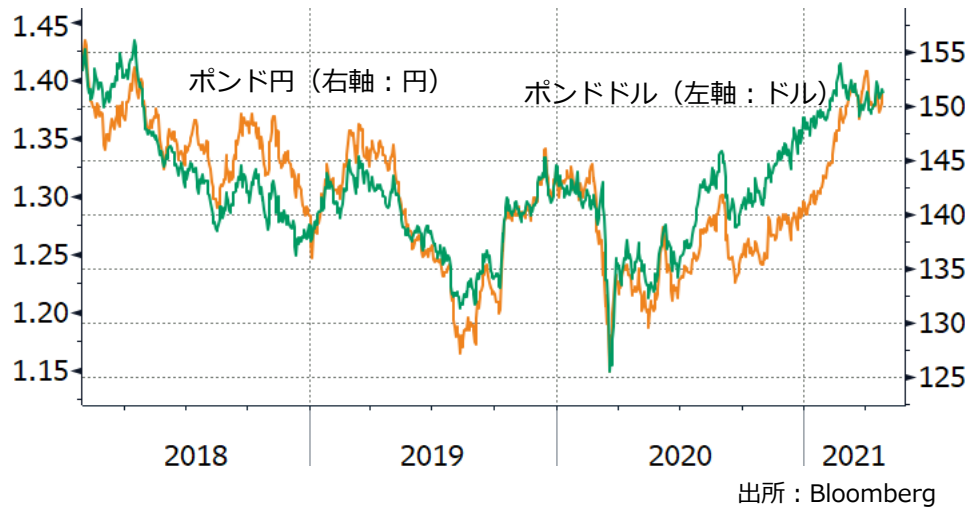


りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年5月号)

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



ポンドドル

ポンドドルは下落

1.32- 1.42ドル

ポンド円

ポンド円は下落

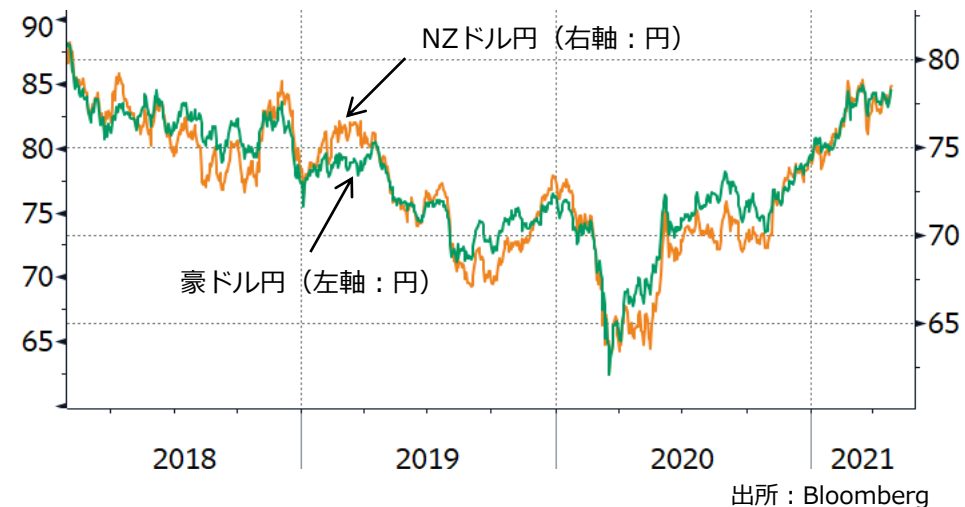
145.00 - 153.00円

ポンドドル、ポンド円はともに下落を予想

4月のポンドは、ドルに対して横ばい、円に対して下落した。ドル安地合いの中、ドルに対しては上昇も、その他大半の主要通貨に対しては下落した。投機筋のポンド買いポジションの解消や英国とEU間の摩擦などが嫌気されたとみる。

5月のポンドは対ドル、対円ともに下落を予想。欧州各国やその主要国でワクチン接種は順調に進んでいる一方、英国の国民に対する接種率は高水準ながら足元では鈍化しており優位性が失われつつある状況。また、5月6日に予定されているスコットランド議会選挙には注目。選挙結果次第ではスコットランドの英国からの独立を求める声が強まる可能性には注意。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円

豪ドル円は横ばい

82.00 - 85.50円

NZドル円

NZドル円は横ばい

76.00 - 79.50円

豪ドル円、NZドル円は横ばいを予想

4月のオセアニア通貨は中国による引き締め懸念を受けた銅価格の下落等から上値重く推移する場面もあったが、その後銅価格や鉄鉱石価格が上昇したこと等から値を戻す展開となった。また資源国であるカナダ中銀が来年の引き締めを示唆したことも、カナダドルとの連動で両通貨を下支えた。NZドルはNZ中銀の政策決定会合で発表された議事要旨がタカ派的とされ上昇する場面もあったが、月間では豪ドル、NZドルとも前月比ほぼ横ばい。

5月のオセアニア通貨は横ばい推移を予想。引き続きグローバルなリスク選好ムードが両国通貨を下支えするとみる。豪中銀は金融緩和の出口に慎重な一方、NZ中銀は国内の住宅価格上昇から利上げが豪州よりも近いと見られている。両国の金融政策のスタンスの違いが明確となる中では、豪ドル対比NZドルが上昇しやすくなる局面もあろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

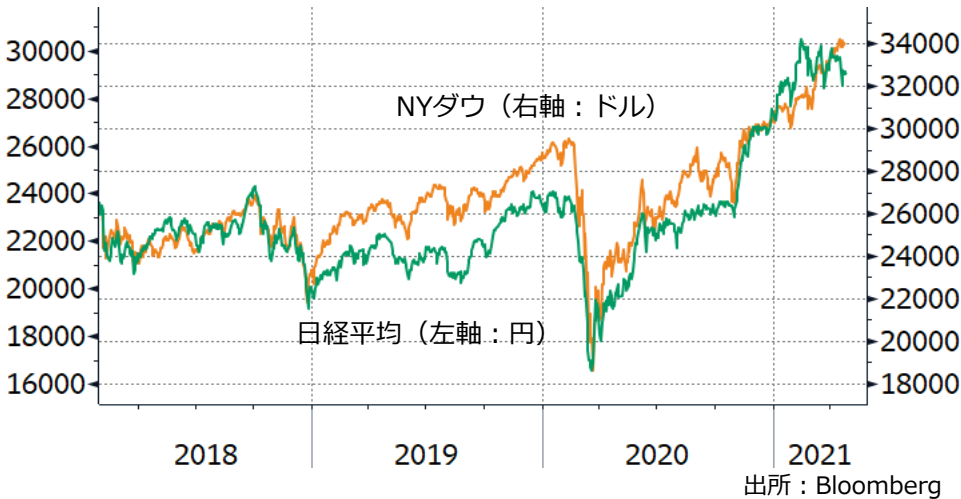


リソナ マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年5月号)

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

⇒ 日経平均は横ばい

28,500 – 30,500円

日経平均は横ばいを予想

4月は諸外国に遅れている日本のワクチン接種や、緊急事態宣言の再発令が日本株の上値を抑えた。5月の日本株は横ばい推移を予想。今月は国内企業決算発表が本格化。良好な内容となれば、警戒感から上値の重かった日本株にあく抜け感も出る可能性も。一方国内外での変異種の拡大が不安材料となるほか、4月の日銀のETF買入方針では大幅な下落とならなければ買入を行わないスタンスが鮮明となり、下落時の下げ幅が大きくなる可能性には注意。

NYダウ

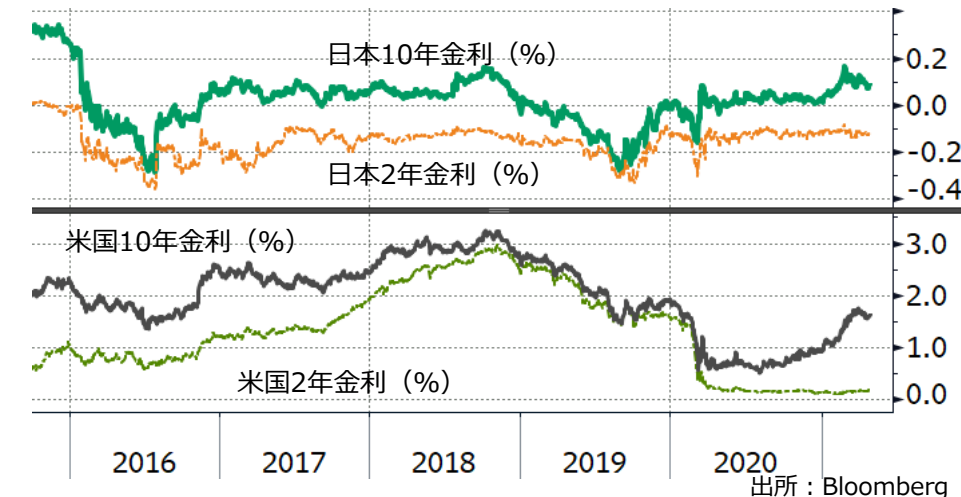
⇒ ダウは横ばい

32,500 – 35,000ドル

NYダウは横ばいを予想

経済の正常化が進む中で、引き続き雇用や物価等を中心とした経済指標に注目。指標が強いほど6月以降のFOMCでのテーパリング議論が連想され、金利上昇からの株安には注意。また4月末でバイデン大統領のハネムーン期間が終了する中、インフラ投資等経済対策の材料出尽くしや、増税等左派的政策への懸念が上値を抑えるものと予想。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

⇒ 金利は横ばい

0.04 – 0.16%

日本国債はもみ合いを予想

3月の日銀の政策点検の内容を消化し、10年金利は0.1%近辺で落ち着きつつある。4/27の金融政策決定会合後の黒田総裁会見でも「長期金利を意図的に変動させることはない」と発言。国内固有の要因には乏しく米金利なりの動きとなりそうだが、米金利が上値を試しても0.2%近辺では誘導レンジ上限が意識され買いも入りやすいだろう。国内金利はレンジ内もみ合いとみる。

米国債10年

⇒ 金利は横ばい

1.45 – 1.75%

米国債は金利横ばいを予想

4月は年初以降の急激な金利上昇が一服し、国債の買戻しが優勢となった。バイデン大統領の長期経済対策である米国雇用計画には増税なども盛り込まれ、財政赤字拡大への懸念が後退したことも国債買いをサポート。5月は引き続き今後の経済対策の議論の進展に注目が集まるとともに、テーパリング開始時期に関してFRB高官の発言などにも注意。ただし、5月はFOMCの開催はなく金融政策の方向性は変わらず、金利もレンジの範囲内での動きとなる。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年5月号)

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨（アジア）

		4/27		5月の予想	4月のレビュー	5月の見通し
中国	人民元/円	16.74	➡	16.4~17.0	ドル人民元はドル安主導で下落し6.5を割り込む水準。一方、人民元も米中対立への警戒等を背景として上値は重く、対円では弱含みとなった。3月の経済指標では小売を中心に回復基調が続いていることが確認されたものの、生産が予想を下回るなどバブル警戒もある中で回復スピードには鈍化もみられ、一方向の人民元高は進みづらくなっている。	当面はドル主導の動きとなりやすい。ドル安地合いが続く中ではドル人民元も下値を試しやすいものの、米経済の力強い回復を背景としてドルが一方向に売られることはなく月後半にかけてはドルに買い戻しも入るとみる。ドル人民元は横ばい圏を予想。予想に反し人民元安が進む要因としては、米中対立の激化や増加傾向にある社債デフォルトの加速に注意。
	ドル/人民元	6.48	➡	6.40~6.60		
タイ	バーツ/円	3.47	➡	3.35~3.55	月前半はタイの新型コロナ感染再拡大の動きが深刻となる中でバーツ安が進行しドルバーツは31.5台に上昇した。その後はドル安に押されてレンジを切り下げたものの、感染拡大の動きは止まらずバンコク市内の娯楽施設閉鎖など新たな制限措置も導入される中で、ドルバーツの下値は限定的であった。	タイでのワクチン接種は進んでおらず、感染者数も急増し過去最多を更新する中で当面バーツ相場の上値が重い展開が続くだろう。インバウンドの枯渇から経常収支が低調となることも上値を重くする要因。ただし新興国経済のなかではファンダメンタルズは底堅く、感染動向がピークをつけると買い戻しも入りやすいとみる。ドルバーツは上昇予想も上値は限定的か。
	ドル/バーツ	31.38	➡	30.8~32.0		
インドネシア	ルピア/円	0.751	➡	0.72~0.77	4月のインドネシアルピアは米金利の上昇は一服したものの、引き続き弱含み推移となり、中旬には年初来安値を付ける場面もあった。その後は下げ幅を縮小、月間ではほぼ横ばい水準となった。対円では月を通して上値の重い展開。	米金利の先高観が燦る中では、ルピアは引き続き上値の重い展開を予想。中銀は、引き続きルピアが不安定なことから金利は当面据え置くものとみられる。また中銀の法改正の思惑が再燃しており、引き続き中銀の独立性が危ぶまれることとなった場合には、弱含む場面もあろう。
	ドル/ルピア	14,485	➡	14,200~14,800		
インド	ルピー/円	1.46	➡	1.41~1.50	4月のインドルピーは国内のコロナ感染の急拡大から大きく下落。感染者は一日に30万人を超えるなど、深刻な状況となっている。またインド中銀が4月の政策決定会合で政策金利を据え置く一方、流通市場で4-6月に1兆ルピー相当の債券を購入することを明らかにしたことも、ルピーの上値を抑えた。対円でも大きく下落後、足元では下げ止まりの兆しも。	インド国内でのコロナ感染の急拡大は深刻であり、インドルピーは上値の重い展開を予想。一方、インドはワクチンの接種回数では米中に次ぐ3位となっており、今後ワクチンの効果が徐々に出てくれば感染も収まる可能性。感染状況に落ち着きが見られれば、引き続きアフターコロナで有望な市場のインドへの資金流入が再開するとみられ、下値も限定的となろう。
	ドル/ルピー	74.66	➡	73.0~75.5		

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年5月号)

◆ 今月の相場見通し⑤ 新興国通貨（中南米・ロシア）

				5月の予想	4月のレビュー	5月の見通し
ブラジル	レアル/円	19.95	➡	18.5～20.5	4月のブラジルレアルは、ドル、円に対してともに上昇。ドルに対しては、ドル安主導で大幅に上昇した。3月の金融政策決定会合で利上げを決定したことはレアルに追い風。ただし、足元でコロナ感染の拡大が抑制できておらず、経済への影響も懸念されていることはレアルの上値を抑える要因となった。	ブラジルレアルは横ばい圏を予想。ドル安地合いも一服し、レアルは落ち着いた動きになると予想。ブラジル国内の感染者数は5月以降再び落ち着くとみられ、レアルの下値サポートとなろう。遅れ気味であるワクチン普及のめどが立てば、レアルの追い風となろう。
	ドル/レアル	5.45	➡	5.20～6.10		
メキシコ	ペソ/円	5.42	➡	5.20～5.75	4月のメキシコペソは、ドルに対して上昇、円に対して横ばいとなった。ドル安主導でメキシコペソは上昇も、他通貨に対してはまちまちの展開。コロナ感染状況は年初にピークを付けたのち低位安定しており、メキシコペソをサポート。	メキシコペソは上昇すると予想。4月前半に発表された3月のメキシコCPIは前年比で+4.7%と、中央銀行が目標とすると水準を上回って推移。一部で更なる利下げへの思惑があったが、物価上昇圧力が強く利下げへの期待は後退したとみられる。引き続き高い物価上昇が予想され、メキシコペソの追い風となろう。
	ドル/ペソ	20.06	➡	19.0～21.5		
ロシア	ルーブル/円	1.45	➡	1.35～1.50	4月のロシアルーブルは、対ドルで横ばい、対円で下落した。対ドルでは、ドル安主導で横ばい圏を保ったが、ロシアの反体制派指導者の健康状態が悪化したことを背景に、米露間の関係がさらに悪化、緊張感が高まっておりルーブルは、ドルを大半の主要通貨に対して下落した。	ロシアルーブルは下落すると予想。米バイデン政権では、ロシアに対して厳しい姿勢を示しており、引き続き米露間の摩擦は強まる可能性があるとする。また、原油価格の上昇も一服感が出ており、ロシアルーブルは下落しやすい展開とみる。
	ドル/ルーブル	74.90	➡	73.0～80.0		

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

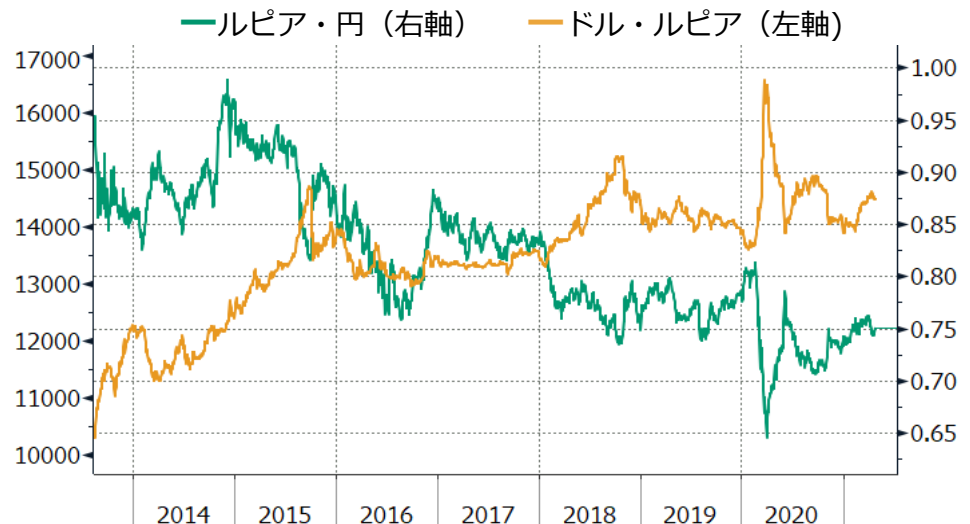
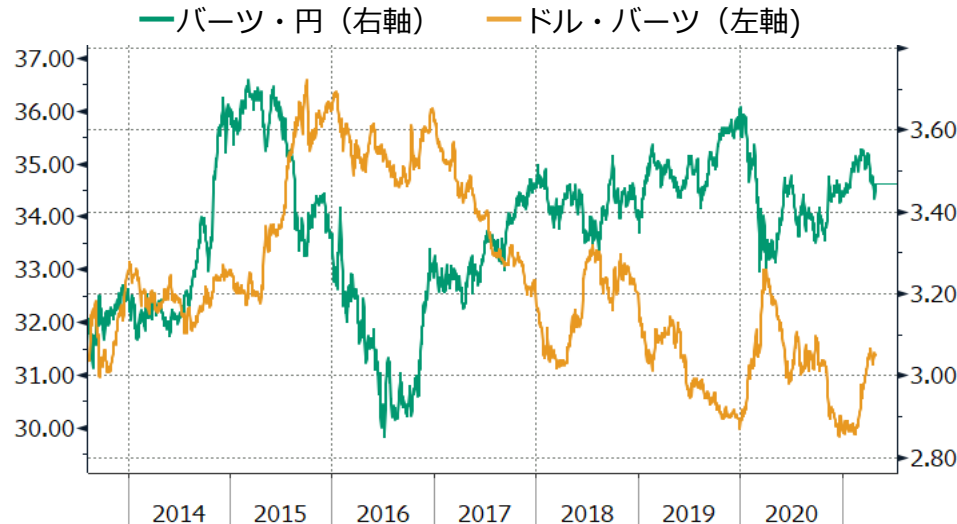
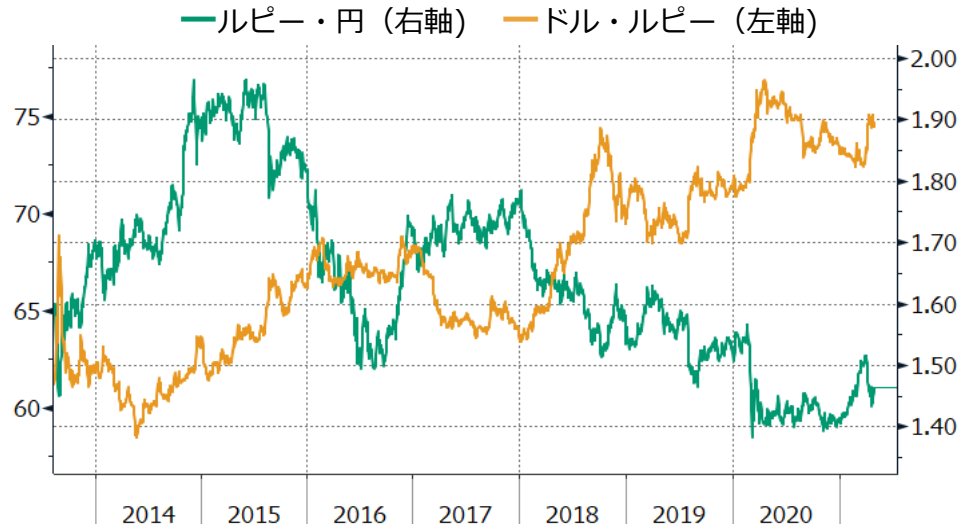
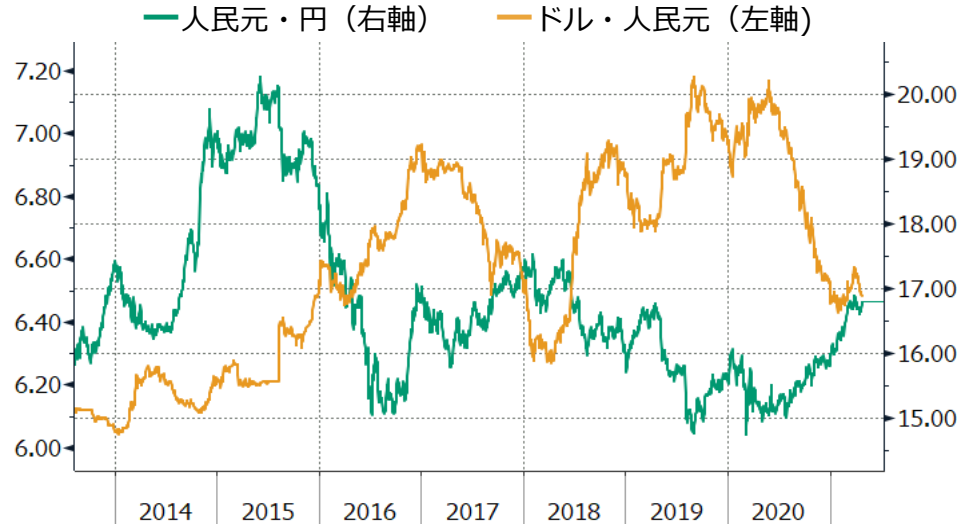
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年5月号)

◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

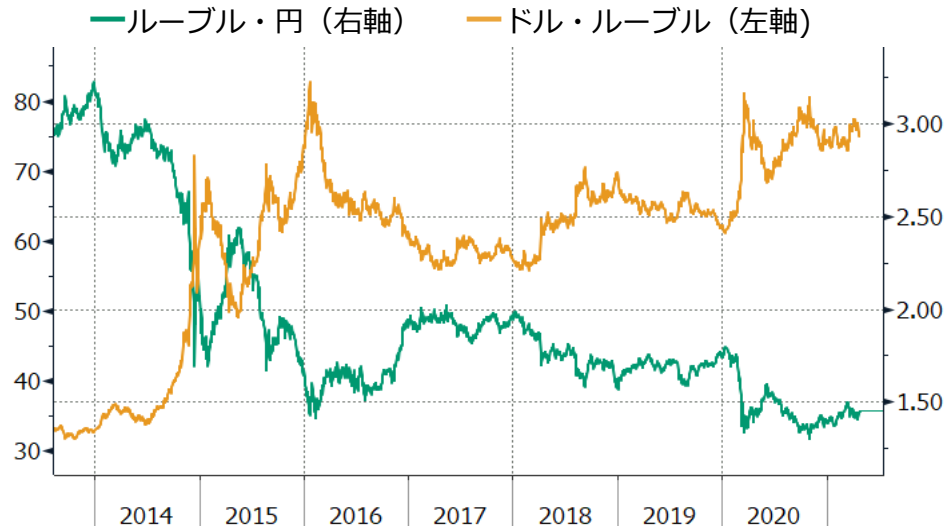
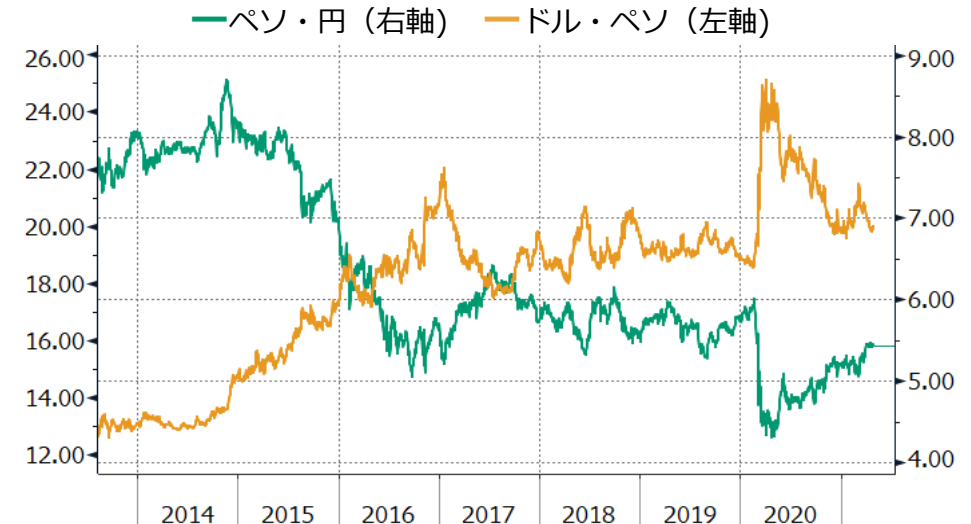
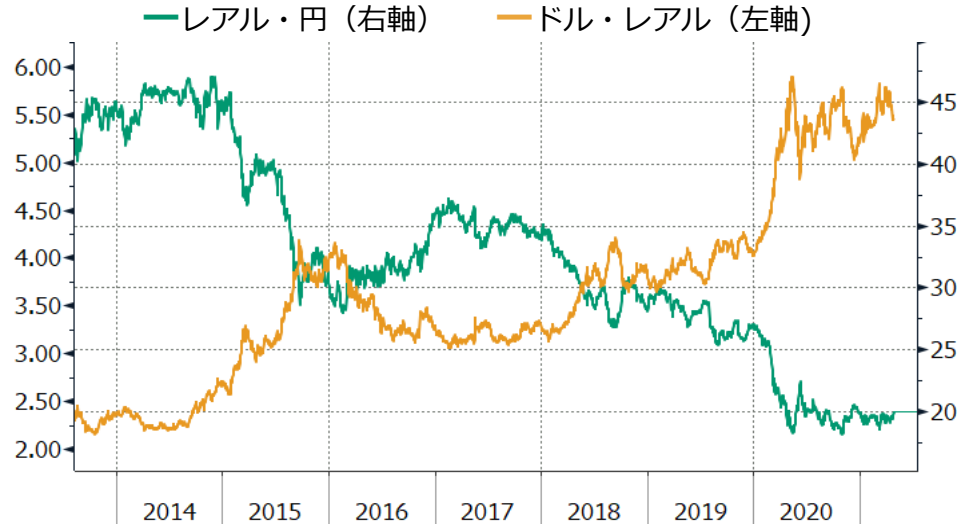
◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年5月号)

◆ 新興国通貨チャート



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年5月号)

◆ 年間為替見通し

		2021年			2022年	ポイント
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
ドル円	レンジ	105～112	106～113	107～113	108～115	目先はドル円上昇は頭打ちと予想。年後半は米国の金融政策やワクチン接種動向意識されドル一段高へ
	期末値	109	110	110	112	
ユーロドル	レンジ	1.12～1.20	1.11～1.19	1.10～1.18	1.08～1.16	欧州復興基金設立をきっかけとしたユーロへの期待はあるものの、基金設立における各国の承認プロセスの遅れやドル安の一服や各国の選挙などへの警戒感強く上値は重い。
	期末値	1.17	1.16	1.14	1.12	
ユーロ円	レンジ	121～132	119～130	119～130	119～130	主要国のワクチン接種普及に伴い、足元の英国の高い普及率の優位性が薄れることに加え、原油価格の上昇一服などもポンドの上値を抑えたとみる。
	期末値	127	125	125	125	
ポンドドル	レンジ	1.30～1.41	1.27～1.39	1.25～1.37	1.23～1.35	中国経済は堅調に推移するも、年内人民元の上値は限定的。米中関係の悪化は元安リスクとして留意
	期末値	1.35	1.33	1.31	1.29	
ポンド円	レンジ	143～154	139～152	138～150	138～150	グローバルな景気回復期待から底堅い動きが継続。中国との貿易摩擦の先鋭化には注意。
	期末値	149	146	144	144	
ドル人民元	レンジ	6.40～6.75	6.40～6.80	6.40～6.80	6.35～6.75	当面観光業を中心としたタイ経済の弱含みによりバーツは軟調となりやすいが、年末にかけ持ち直し
	期末値	6.55	6.60	6.60	6.45	
人民元円	レンジ	15.6～17.0	15.6～17.0	15.5～16.9	15.5～16.9	
	期末値	16.5	16.4	16.7	17.0	
豪ドル円	レンジ	80.0～88.0	80.0～88.0	82.0～90.0	82.0～90.0	
	期末値	86.0	86.0	87.0	88.0	
タイバーツ円	レンジ	3.35～3.70	3.30～3.70	3.30～3.75	3.40～3.80	
	期末値	3.50	3.45	3.50	3.57	

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年5月号)

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
5/3(月)	(憲法記念日)	4月ISM製造業景況指数	
5/4(火)	(みどりの日)	3月製造業受注 3月貿易収支	(豪) 準備銀行理事会 (中) 4月製造業PMI
5/5(水)	(こどもの日)	4月ADP雇用統計 4月ISM非製造業景況指数	
5/6(木)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (3/18~19開催分)		(英) BOE金融政策委員会 (中) 4月貿易統計
5/7(金)	3月毎月勤労統計 (速報)	4月雇用統計	
5/10(月)			
5/11(火)	10年債入札 3月家計調査	3年債入札	(中) 4月CPI (独) 5月ZEW景気指数
5/12(水)		10年債入札 4月CPI	
5/13(木)	30年債入札 4月景気ウォッチャー調査	30年債入札 4月PPI	
5/14(金)		4月小売売上高	

	日本	米国	その他
5/17(月)	4月企業物価指数	5月NY連銀製造業景気指数	(中) 4月生産・小売・投資
5/18(火)	1-3月期GDP (一次速報値)	4月住宅着工・許可件数	(欧) 1-3月期GDP (速報値)
5/19(水)	5年債入札	20年債入札 FOMC議事要旨	
5/20(木)	4月貿易統計	5月フィラデルフィア連銀製造業景気指数	
5/21(金)	20年債入札 4月消費者物価指数	4月中古住宅販売	(欧) 5月PMI (速報値)
5/24(月)		(戦没者祈念日)	
5/25(火)		2年債入札 4月新築住宅販売 5月消費者信頼感指数	(独) 5月IFO企業景況感指数
5/26(水)		5年債入札	
5/27(木)	40年債入札	1-3月期GDP (改定値) 7年債入札	
5/28(金)	4月労働力調査	4月個人所得・消費支出	
5/29(土)	4月住宅着工件数		
5/31(月)	2年債入札 4月鉱工業生産		(中) 5月PMI

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年5月号)

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【3/26 ~ 4/1】

◎ 3月のPMIは51.9 4カ月ぶり上昇

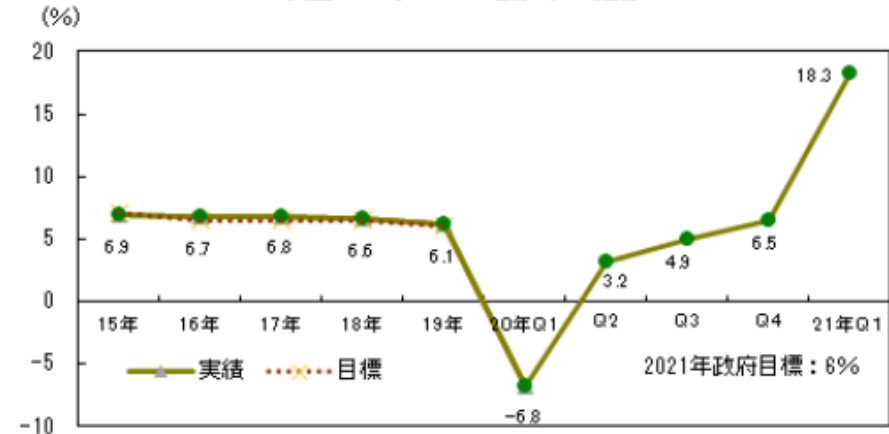
中国統計局によると、3月の製造業購買担当者指数（PMI）は51.9だった。同数値は前月を1.3ポイント上回り、4カ月ぶりの上昇となった。景気判断基準である50は13カ月連続で上回った。構成指数の内訳としては、生産は53.9と2.0ポイント上昇、新規受注は53.6で2.1ポイント上昇、雇用指数は50.1で2.0ポイント上昇した。また、企業規模別の内訳としては、大型企業が52.7、中型企業が51.6、小型企業50.4といずれも前月比小幅ながらも上昇した。

【4/2 ~ 4/8】

◎ 中国第1四半期世界最大の環境債起債国に

金融情報会社リフィニティブによると、中国において第1四半期に発行された「グリーンボンド」（環境債）は、前年同期比4倍の157億米ドルと、米国の150億米ドルを抜いて世界最大のグリーンボンドの発行国となった。発行体は銀行、不動産デベロッパー、電力会社、鉄道会社がメイン。また、中国人民銀行によると、中国におけるグリーンボンドの発行残高は20年末時点で、8,132億元（約1兆3,800億円）と世界2位の規模だが、中国の債券市場に占める割合は1%未満と、低水準に留まっている。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年5月号)

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【4/9 ~ 4/15】

◎第1四半期貿易額38%増輸出約5割増

中国税関総署の統計データによると、2021年第1四半期（1－3月）の貿易額は前年同期比38.6%増の1兆3,036億230万米ドル（約143兆円）で、3四半期連続のプラス成長となった。内訳としては、輸出が前年同期比49%増の7,099億7,820万米ドル、輸入が28%増の5,936億2,410万米ドルで、1,163億5,410万米ドルの貿易黒字を計上している。国・地域別の貿易額では、主要市場が全てプラスを記録。成長率では、米国73.1%、イギリス64.4%、EU46.3%、アセアン35.3%、日本29.3%、韓国28.3%の順となっている。

【4/16 ~ 4/22】

◎第1四半期主要指標が好調

中国国家統計局のデータによると、第1四半期（1－3月）の鉱工業生産額は前年同期比24.5%増、固定資産投資は前年同期比25.6%増、小売売上高は前年同期比33.9%増だった。また、新型コロナウィルス流行前の2019年同期と比較してもプラス成長であり、回復傾向が強まっている。なお、中国政府が重要視している雇用指標について、全国都市部失業率（調査ベース）が3月は5.3%となり、通年目標（5.5%前後）の範囲内に収まっている。第1四半期の都市部新規就業者数の通年目標達成率は27%と、順調に推移している。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2020/5	2020/6	2020/7	2020/8	2020/9	2020/10	2020/11	2020/12	2021/1	2021/2	2021/3
実質GDP成長率	%	-	3.2	-	-	4.9	-	-	6.5	-	-	18.3
消費者物価上昇率	%	2.4	2.5	2.7	2.4	1.7	0.5	-0.5	0.2	-0.3	-0.2	0.4
都市部調査失業率	%	5.9	5.7	5.7	5.6	5.4	5.3	5.2	5.2	-	5.5	5.3
輸出額	10億ドル	206.4	212.8	236.8	234.4	238.6	236.3	266.9	281.9	264.0	204.9	241.1
輸入額	10億ドル	144.5	168.0	176.3	177.0	203.0	178.6	191.9	204.4	199.1	167.2	227.3
経常収支	100万ドル	-	56,866	-	-	150,215	-	-	273,980	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,101.7	3,112.3	3,154.4	3,164.6	3,142.6	3,128.0	3,178.5	3,216.5	3,210.7	3,205.0	3,170.0
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.11	7.08	7.01	6.93	6.81	6.70	6.60	6.54	6.47	6.46	6.51

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年5月号)

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○上海 一般市民向けのワクチン接種を本格開始

上海では今週から、一般市民向けの新型コロナウィルスワクチン接種が本格的に開始しました。これまでは、医療、教育、政府、運送など密な接触が避けられない業界関係者向けの接種が優先的に行われてきました。

上海市政府によると、3月21日時点、累計88.2万人が接種済（計2回）と明らかにしました。

3月22日（月）からは、職業を問わず、18～59歳の市民が政府主導のアプリでワクチン接種を予約できるようになりました。また、25日（木）から60～75歳の市民もオンライン予約可能になりました。

なお、3月29日から、上海市在住の外国人向けの接種も始まると発表されています。

予約手続きは中国人とほぼ同じですが、中国社会保险に参加していない場合、100元の自己負担が発生するという点だけが違います。

報道によると、接種が完了した後、今まで防疫対応策の一つとして利用されている健康コード（QRコード）にも接種状況が反映されるようです。

○「清明節」について

今年の4月4日（旧暦2月23日）は中国では「清明節」といい、中国4大伝統祝祭日の一つでもあります。

この日には古来、お墓参りをしたり、「踏青」（郊外へ出かけて散策する）したりする習慣があります。また、「青团」という青汁と餅で作られるあんこ入りのお団子を食べる風習もあります。

現在、中国では清明節を3連休とすることが多いですが、春のいい天気恵まれて連休を利用して旅行したり帰省したりする人も増えてきているようです。

最後に、中国では誰もが知っている「清明」という漢詩を楽しみましょう。

清明の雨、切ない気持ち、酒屋、通り合わせた牛飼いの少年、そして杏子の花が咲く村落の風景が絵の如く浮かぶ絵画的な叙景詩です。

清明

「唐」杜牧

清明時節雨紛紛 路上行人欲断魂

借問酒家何処有 牧童遥指杏花村

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年5月号)

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ中央銀行が発表した2021年2月の主要経済指標（速報値）によれば、タイ経済は新型コロナウイルス感染第2波が抑制される中、国内の景気は緩やかに改善した。個人消費指数は前年同月比2.1%減と下げ幅が縮小した。半耐久財の消費がプラス成長だった。民間投資指数は同7.0%上昇。機械・設備投資を中心とした資本財の輸入は急増したものの、建設投資は減少した。公共投資は前年同月比増加。工業生産指数は同1.1%低下したものの、自動車・同部品、集積回路、半導体等の生産は拡大した。

◆タイ商務省によると、2021年2月の輸出額は前年同月比2.6%増の202億1,901万米ドルと、3カ月ぶりにマイナス成長。変動の激しい金、石油、武器を除いた輸出は同2.9%拡大した。農産物・加工品の輸出は前年同月比7.0%増、工業製品は同4.0%減。食品類、家具、電気製品等の輸出は好調だった。市場別では、米国と中国向けの輸出額が2桁の増加となった他、日本、オーストラリア、中南米、アフリカ向けも拡大した。

東南アジア諸国連合、CLMV諸国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）向けは減少した。輸入額は同22.0%増の202億1,176万米ドル。この結果、貿易収支は725万米ドルの黒字となった。一方、2月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル＝29.99パーツで、前月の30.00パーツ比ほぼ同水準だった。

◆タイ商務省が発表した3月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比0.08%下落した。前年同月を下回ったのは13カ月連続。食品・飲料は同0.26%低下した。非食品は同0.04%上昇。また、今年1～3月のCPI平均値は前年同期比0.53%下落した。2021年通年のCPI見通しは0.7～1.7%に据え置いた。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2020/5	2020/6	2020/7	2020/8	2020/9	2020/10	2020/11	2020/12	2021/1	2021/2	2021/3
実質GDP成長率	%	-	-12.1	-	-	-6.4	-	-	-4.2	-	-	-
消費者物価上昇率	%	-3.4	-1.6	-1.0	-0.5	-0.7	-0.5	-0.4	-0.3	-0.3	-1.2	-0.1
失業率	%	1.0	1.0	2.2	1.9	1.8	2.1	2.0	1.5	1.5	1.5	-
輸出額	100万ドル	16,285	16,464	18,819	20,212	19,621	19,377	18,933	20,083	19,707	20,219	-
輸入額	100万ドル	13,584	14,785	15,476	15,863	17,391	17,330	18,880	19,119	19,909	20,212	-
経常収支	100万ドル	867	182	1,599	3,545	1,440	674	-1,294	-829	-673	-1,071	-
外貨準備高	10億ドル	237.3	241.6	250.4	254.5	251.1	248.5	253.5	258.1	256.8	253.9	245.5
主要政策金利	%	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
対ドル為替レート	パーツ	32.0	31.2	31.4	31.2	31.4	31.3	30.5	30.1	30.0	30.0	30.8

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

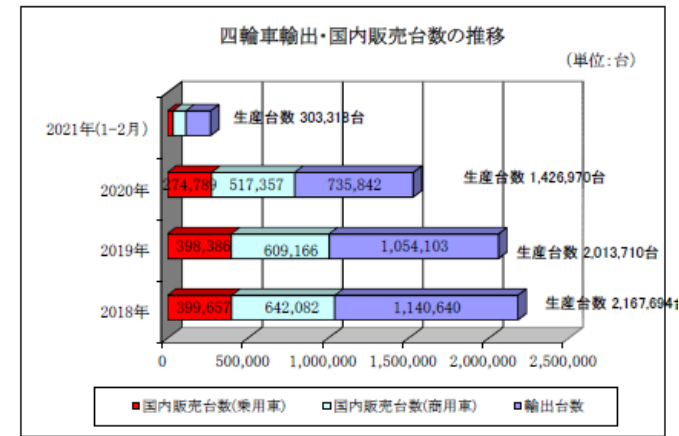
(2021年5月号)

タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

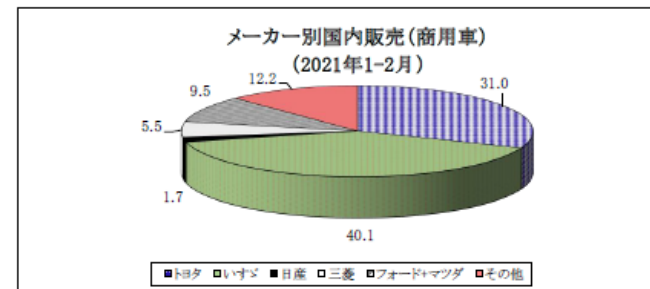
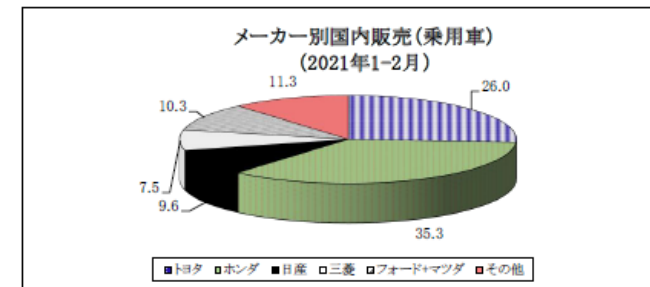
出所:タイ工業連盟(FTI)

		2018年	2019年	2020年	2021年 (1-2月)	前年同期比 (%)	2月
【台数】 (台)							
四輪	生産台数	884,609	804,340	542,437	112,323	94.9	58,714
	乗用車	1,283,085	1,209,370	884,533	190,995	101.3	96,486
	商用車	642,082	609,166	517,357	79,095	96.1	39,991
	合計	2,167,694	2,013,710	1,426,970	303,318	98.8	155,200
	国内販売台数	399,657	398,386	274,789	35,073	64.7	18,969
二輪	生産台数	1,140,640	1,054,103	735,842	153,602	95.7	79,470
	乗用車	1,788,323	1,718,587	1,516,096	265,771	93.6	130,130
	商用車	886,275	948,839	727,152	167,838	100.1	88,027
	合計	1,041,739	1,007,552	792,146	114,168	83.7	58,960
	輸出台数	2,063,076	1,948,480	1,615,319	334,001	102.8	168,127
【完成車輸出金額】 (百万バーツ)							
四輪		594,810	545,968	410,912	84,517	106.0	43,082
二輪		61,654	69,933	85,802	16,661	117.2	9,125



【メーカー別国内販売台数】 出所:トヨタ自動車

		2018年	シェア (%)	2019年	シェア (%)	2020年	シェア (%)	2021年 (1-2月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	2月
トヨタ	乗用車	112,394	28.1	117,708	29.5	68,152	24.8	9,129	68.9	26.0	4,056
	商用車	202,719	31.6	214,672	35.2	176,164	34.1	24,526	95.9	31.0	11,841
	合計	315,113	30.2	332,380	33.0	244,316	30.8	33,655	86.7	29.5	15,897
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	177,864	27.7	168,215	27.6	181,194	35.0	31,725	110.3	40.1	16,477
	合計	177,864	17.1	168,215	16.7	181,194	22.9	31,725	110.3	27.8	16,477
ホンダ	乗用車	95,793	24.0	96,154	24.1	77,419	28.2	12,394	69.3	35.3	7,868
	商用車	32,497	5.1	29,679	4.9	15,622	3.0	2,270	69.1	2.9	1,139
	合計	128,290	12.3	125,833	12.5	93,041	11.7	14,664	69.3	12.8	9,007
日産	乗用車	43,991	11.0	35,809	9.0	27,120	9.9	3,353	49.9	9.6	1,803
	商用車	28,403	4.4	28,605	4.7	17,438	3.4	1,372	38.6	1.7	740
	合計	72,394	6.9	64,414	6.4	44,558	5.6	4,725	46.0	4.1	2,543
三菱	乗用車	31,594	7.9	38,879	9.8	22,363	8.1	2,631	51.9	7.5	1,421
	商用車	52,966	8.2	49,365	8.1	35,046	6.8	4,331	62.7	5.5	2,221
	合計	84,560	8.1	88,244	8.8	57,409	7.2	6,962	58.1	6.1	3,642
その他	乗用車	115,885	29.0	109,836	27.6	79,735	29.0	7,566	51.3	21.6	3,821
	商用車	147,633	23.0	118,630	19.5	91,893	17.7	14,871	104.8	18.8	7,573
	合計	263,518	25.4	228,466	22.7	171,628	21.8	22,437	77.5	19.7	11,394
合計	乗用車	399,657	100.0	398,386	100.0	274,789	100.0	35,073	64.7	100.0	18,969
	商用車	642,082	100.0	609,166	100.0	517,357	100.0	79,095	96.1	100.0	39,991
	合計	1,041,739	100.0	1,007,552	100.0	792,146	100.0	114,168	83.7	100.0	58,960



◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。